

# 1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2971400144		
法人名	特定非営利活動法人 信貴山やすらぎ会		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	奈良県生駒郡平群町菊美台1丁目206-1		
自己評価作成日	平成25年10月10日	評価結果市町村受理日	

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3F		
訪問調査日	平成25年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根ざし、地域社会の一員として健康で、楽しく、安心して暮らせるよう家庭的な環境で自立支援を行う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は小高い丘の上にあつて、西側に大きく生駒山を眺めることができる。建物は、新築の平屋建てで完全なバリアフリーになっており、現在もう1ユニットを増設する工事を行っている。居間は天井に明り取りがあつて明るく、広くてゆったりしている。利用者一人ひとりの個性を大切に、自立支援を行っている。地域に根ざし、地域社会の一員として健康で、楽しく、安心して暮らせるよう支援することを目標としている事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の玄関に「理念」「運営方針」「介護規範」を掲示しいつでも各職員並びに家族様に見ることが出来るようにしている	地域に根ざし、地域社会の一員として健康で、楽しく、安心して暮らせるよう家庭的な環境で自立支援を行うことを理念としている。理念を玄関に掲示するとともに、毎朝職員で唱和している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年に事業所移転を行い地域との交流はあまり図れていないが近くの公園に散歩に行き地元民との交流はある	事業所の移転により昨年4月に新規開設されたため、まだ自治会に加入していない。近くの公園に散歩に行った時に、近所の方と挨拶を交わしている。今後は、地域交流に取り組む予定である。	自治会に加入し、地域の行事に出かけたり事業所の行事に地域の人を招待したりして、さらに地域との相互交流が深まるよう期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長と町内の独居高齢者について話し合いをしています。又町内高齢者の相談等受けております。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	10月22日実施いたします。	第1回運営推進会議が、自治会長、町担当職員、家族代表等が参加し、10月22日に開催された。他施設の職員も参加し、サービス向上のアドバイスを頂いた。今後は2ヶ月に1回、会議を開催する予定である。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	来年の1ユニット増設について市町村と綿密に相談させて頂いています	事業所の移転やユニットの増設などで、町担当職員から指導やアドバイスを頂き、協力関係を築いている。町役場に週1回は足を運んで相談し、サービス向上に努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	都度身体拘束に当てはまらないか職員一同話し合い身体拘束についての理解を深めている。	玄関は昼間施錠されていないが、現在外で新ユニット増設工事が行われているため、居間と玄関との中の扉は施錠されている。身体拘束をしないケアについて、職員間で共有認識をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について冊子を作成し都度閲覧できるようにし管理者は不適切な介護が行われていないか職員の意見を元に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者様全員要介護であり日常生活自立支援事業についての話し合いは行っていないが、成年後見人制度については職員研修の際に知りえています が制度を利用されておられるご利用者様はおられません。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書で契約の際には良く説明をさせていただき理解・納得をしていただいています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が訪問時に意見要望等を尋ね運営に反映させ家族様には改善点を明示し理解していただいています。	家族からは、主に面会の時に利用者の日頃の様子を伝えるとともに意見や要望を聴くようにしている。利用者からは、日々の生活の中で食べたいものや行きたい所などを聴いている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は主任が吸い上げ管理者に要望し反映させています。	職員の意見は、日々の活動の中で管理者が聞くようにしている。職員が管理者に直接言えないときは、理事や主任が聴いて伝えるようにしている。管理者が個別に職員と対面し意見を聞くとときもある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所移転に伴い職場環境の整備が整い職員の入れ替わりが格段向上しています		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が介護技術等の向上をめざし実践の中でサービスのこうじょうに努めている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は図れていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様やご本人よりご意見を頂戴し本人様に安心して暮らしていただけるように努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より家族様とは綿密に話し合いを行いより良いサービスを構築できるよう努めています		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様とはいろいろな場面に応じたサービスの提供を話し合い現にデイケアを利用されているご利用者様もおられます。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が各ご利用者様に応じた時間を作り共に作業をしたり昔の話をしたりしています		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事には必ず家族様に案内をさせていただき共に有意義な時間を過ごしていただけるよう努めています		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔住んでおられた場所のご近所様が突然に訪問されても会ってもらえるようにしています。	利用者の希望を聞いて、外泊や家族との墓参りなど外出の支援をしている。知人の訪問も歓迎している。事業所が移転したため、前の事業所でできていた人や場所との関係性が崩れないよう配慮するつもりである。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お隣同士同じ話題が共有できるように支援しています。		
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了しても相談があれば対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日々の暮らしの中で本人様との会話により希望や意向について把握し検討しています	日頃から個々の利用者の思いや意向を把握し、朝着たい服を選んでもらったり、絵を描きたい人に用具を準備したり、本を読みたい人に本を差し入れるなどの支援を行っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や習慣、環境等事前に家族様よりお聞きしサービスに役立てています		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前にお聞きした内容に沿って現状状態を把握するよう努めています		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様との話し合いや主治医、各医療機関と連携しプランに反映できるよう努めています	主治医の意見や家族の思いを考慮し、介護計画が立てられている。介護計画は職員間で共有され、日々の介護に活かされている。	ケアカンファレンスで得た情報を職員で話し合い、利用者の医療や身体面からだけでなく、生活歴や生き甲斐などから笑顔が増えるプランの策定も望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ご利用者のケース記録で心身の状態、食事、排泄等を把握し情報の共有を図り、介護サービスの変更がある時は連絡帳を活用しています		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や家族様の状況変化には家族様の訪問時や施設行事等で拝聴し柔軟に対応させていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに公園や大型スーパーなどがあり散歩や日々の買い物時にスタッフと共に利用させて頂いています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所に協力いただいている医療機関にて随時往診や受診をさせて頂いています。	内科のかかりつけ医の往診が月2回、歯科医の往診が週1回あり、皮膚科や眼科医の往診もある。利用者個々のかかりつけ医の受診することもできる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護職員が往診時に付添、日々の健康管理にも目お配り把握し管理者、職員に体調変化があれば相談しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携医療機関もあり、検査、入院時にも紹介いただいています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	過去の事例等を家族様に説明しています。	看取りケアの事例が、1件ある。看取りケアについては、かかりつけ医や家族とよく相談して対応することになっている。職員の負担も大きいので、これからどう対応するかは、職員で話し合う予定である。	看取りケアにどう取り組むか職員で話し合っ、その指針を明文化し、利用開始時に説明できるようにすることが望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	宿直担当者や正職は救急救命講習を受け非常勤職員にも伝達し非常時に備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い各職員に周知徹底をおこなっています。	事業所の新築時に、スプリンクラーや緊急通報装置等が完備されている。年2回、避難訓練も行なっている。AEDが設置しており、地域の人にも緊急時に利用できるようにしている。水や食料の備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の尊厳を尊重し親しみのある声かけを実践しています。	居室に入るときには、本人に一声かけて了解を得ている。一人ひとりの人格を尊重し、その方に合った声かけをしている。一人で食事をしたい方は、テーブルを分けるなど工夫している。個人情報に係わる書類は、事務所に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今、ご利用者様がどうしたいのか耳を傾け本人様の意に添うようにつとめています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各ご利用者様の生活リズムを大切に希望に沿ったサービスができるよう努めています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自らの意思によりお化粧をしたりされることに対して支援し身だしなみに気を付けるよう努めています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様にテーブルを拭いて頂いたり、配膳、食後の食器を運んでいただいたりしています。」	副食は給食業者が納入しており、ご飯や味噌汁などは職員が作っている。朝食は、パンかご飯を選ぶことができる。職員も同じ食事をしている。おやつレクリエーションをみんなで楽しんだり、誕生日にはケーキを用意している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態の悪いご利用者様にはミキサー食にしたり、ゼリーのお茶提供したり、個々の状態に応じて提供させていただいています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはもちろんのこと、毎週歯科往診を協力歯科にお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄時間を記載し時間を把握しトイレ誘導を行い、トイレのサインを見逃さず誘導している。	利用者個々の排泄時間を記録し、排泄パターンを把握して適切なトイレ誘導を心がけている。なるべくおむつを使わず、紙パンツやパッドで対応できるようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と連携し便秘等の服薬を支援し、水分補給を促し便秘予防に努めています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	主治医や協力医療機関等の意見を取り入れ、個々の意向に沿い入浴していただけるよう努めています。	お風呂は、1日おきには入れるようにしている。女性は同性介助を行って、リラックスして入ってもらえるよう心がけている。また、入浴剤を入れて楽しむこともある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の意向に沿い昼夜を問わず休息していただけるようにし、昼夜逆転にならないよう支援しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を各職員がいつでも閲覧できるようにし、変更時には連絡帳を活用し周知できるようにし、毎日定時にVS測定を行い、必要であれば主治医の意見にて回数を増やし報告し対応しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でスタッフとの買い物や、洗濯物干し、洗濯物のたたみ等をおこなってもらったりレクレーションにてカレンダーの色塗りや折り紙、カラオケ等楽しんでもらっています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診時の外出支援や家族様との遠方への外出。スタッフとの散歩などを支援しています。、	現在ユニット増設工事のため、出にくくなっているが、天気の良い日は近くの公園へ散歩している。工事が終われば、敷地内も散歩できるようにする予定である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様やご本人より強い要望があれば金銭所持を考えますが、現時点では金銭を所持されておられる方はおられません。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の了解があれば電話をさせていただいています。また、知人や家族様からの郵便物は本人様に手渡し、手紙などを書かれる場合は支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花々を飾り、採光も良く、トイレや浴室も広く、都度温度、湿度には気を配り居心地良く過ごしていただけるよう配慮しています。	居間は、天窓があって明るく、テーブル席とソファがゆったりと置かれている。トイレや浴室も使いやすい構造になっている。季節の花も飾られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士が心地よく過ごせるよう食事時の席の配置を考慮したり、ソファに移動しゆっくりと過ごせるように配慮しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具を居室に持ち込んでいただき又、ご家族様の写真などを飾り、快く過ごしていただけるよう配慮しています。	高台にあるので、居室からも眺望を楽しむことができる。居室内には大きなクローゼットがある。利用者の使い慣れた筆筒や椅子、衣紋掛け、テレビなどが持ち込まれて居心地よい空間がつけられている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には手すりを設置し、車いす自走や歩行器でも安全なように配慮されており、個々の能力に応じた声かけや支援を実施しております。		